

専攻科だより

専攻科1年をふり返って -

専攻科長 中 哲夫

生産システム工学専攻主任 葛目 幸一

海上輸送システム工学専攻主任 高岡 俊輔

前期を修了して

海上輸送システム工学専攻

平成17年10月3日に海上輸送システム工学専攻の1期生として10名が入学して来ましたが、早いもので半年が過ぎました。海上輸送システム工学専攻は生産システム工学専攻と違い、半年遅れのスタートのため、前期が修了したことになります。船で例えると新造船「海上輸送システム丸」の試運転が完了し、これから大洋航海に乗り出す所に来たと言った所でしょうか。この新造船に乗組んでいる10名は、船会社で実際に船に乗っていた者1名、陸上企業で働いていた者2名、本科の遠洋航海から帰って来た新卒者7名のクルーです。この内、航海系は3名、機関系7名で日々船務(研究)に励んでいます。試運転の半年間には、学会発表6回、研究論文1篇という成果が出ました。上出来であったと感じます。これから大洋に出て行く上で、常に船位確認(研究の現状把握)をして、つぎの針路(研究の方向性)を決定し Course line(研究計画)に沿って順調に進んでほしいと思います。これからの長い航海の中には時化にも幾度となく遭遇すると思います。コースから大きく外れて grounding(座礁)や Short bunker(燃料切れ)を起こすことのないように目的地(専攻科修了、学位取得)まで頑張る航海してほしいと思います。現在、この船の当面の船首目標は、3月6日に開かれる「専攻科中間発表」です。エンジンモーションを徐々に上げて行き、良い結果を出してほしいと思っています。



海事科学実験風景

表1. 海上輸送システム工学専攻研究活動実績

研究活動内容	発表人数
日本航海学会講演会発表(神戸大学)	1名
日本塑性加工学会中国・四国支部学生研究発表会(弓削高専)	2名
弓削商船高等専門学校紀要 第28号	1名
機械学会・中国支部学生研究発表会(広島大学)	1名

()内は講演会場

1年をふり返って

生産システム工学専攻

生産システム工学専攻がスタートし、早いもので1年近くが経とうとしています。専攻科の特徴は「特別研究」にあり、大学学部にはない「3年間にわたる実践的な研究」に没頭できる機会が与えられることです。学生達は2月に入り、特別研究中間発表や学会発表の準備で遅くまで実験室で格闘しています。この一年間を振り返ってみると、学生全員が学会発表2回、実用新案1件、キャンパスベンチャー四国「特別賞」受賞など、我々教員の予想を超える成果を挙げました。また、英語能力向上のため週一回ネイティブを交えてのワンコインレッスン、TOEIC 受験など自ら問題意識を持ち自発的に挑戦しています。英語能力に関しては、まだまだ「及第点」には到達していませんので、学生の努力に加え専攻科独自の「英語能力向上」のための何らかの対策を講じていく必要があります。4月に入るといよいよ大学院入試や就職活動も本格化します。1期生8名のうち大学院進学希望者、就職希望者ともに4名です。われわれ教員スタッフも新しい歴史を作るべく専攻科一期生の就職・進学の支援に全力を尽くしたいと考えています。



日本塑性加工学会中・四国支部学生研究発表会の様子

表1. 生産システム工学専攻研究活動実績

研究活動内容	発表人数
電気関係学会四国支部連合大会(四国電力)	2名
日本塑性加工学会中国・四国支部学生研究発表会(弓削高専)	4名
電子情報通信学会総合全国大会(国土館大学)	2名
機械学会・中国支部学生研究発表会(広島大学)	6名
弓削商船高等専門学校紀要 第28号	2名
実用新案	1名
キャンパスベンチャー四国「特別賞」受賞	1名

()内は講演会場